

## 令和 3 年度実施施策に係る政策評価書（案）

|                           |    |    |
|---------------------------|----|----|
| 地 域 経 済 活 性 化             | …… | 1  |
| 子 ども ・ 若 者 育 成 支 援        | …… | 3  |
| 交 通 安 全                   | …… | 5  |
| 男 女 共 同 参 画               | …… | 7  |
| 科 学 技 術 ・ イ ノ ヴ ェ ー シ ョ ン | …… | 10 |

令和3年度実施施策に係る政策評価書

|                                    |  |                 |       |       |       |
|------------------------------------|--|-----------------|-------|-------|-------|
| 政策名                                | 地域経済活性化支援  |                 |       |       |       |
| 施策名                                | 地域経済活性化に関する施策の推進   |                 |       |       |       |
| 達成すべき目標                            | <p>【施策目標】 新型コロナウイルス感染症等の影響を受けた事業者への支援等による、地域における総合的な経済力の向上を通じた地域経済の活性化及び地域の信用秩序の基盤強化</p> <p>【中目標1】 地域の中堅・中小企業の事業が再生</p> <p>【中目標2】 機構のノウハウが地域金融機関へ移転し、地域における自律的な事業再生支援能力が向上</p> <p>【中目標3】 事業の継続が困難な事業者の円滑な退出により、経営者の再チャレンジや地域経済の新陳代謝が促進</p>   |                 |       |       |       |
| 施策の概要                              | <p>【施策の概要】</p> <p>株式会社地域経済活性化支援機構(以下「機構」という。)において、有用な経営資源を有しながら過大な債務を負っている地域の事業者に対する再生支援及び地域経済の活性化に資する事業活動の支援を行うとともに、協働する地域金融機関等へのノウハウ移転を通じ、地域における自律的な事業再生支援能力の向上、地域活性化の取組みを定着させる。</p> <p>【令和3年度に実施した具体的取組】</p> <p>機構は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者等に対し、事業再生の枠組みを活用した支援や、地域金融機関と連携したファンドを通じた資本金の供給等を進めた。具体的には、機構は、製造業、宿泊業、卸・小売業など幅広い業種から相談を受け、ポストコロナを見据えた設備投資による生産性向上の取組や、事業統合等による採算性向上の取組などに対し、ファンドを通じた出資や取締役等の派遣によるハンズオン支援を行った。</p> <p>また、機構は、事業継続が困難な事業者の債務と、経営者個人の保証債務の整理を一体で行う特定支援業務を進めた。</p> <p>令和3年度の実績については、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業再生支援 2件</li> <li>・ ファンドによる投資 21件、45.2億円</li> <li>・ 特定支援 14件</li> <li>・ 特定専門家派遣 16件</li> </ul> |                 |       |       |       |
| 施策の予算額・執行額<br>(単位:百万円)             | 区分   | 令和元年度           | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|                                    | 予算の状況  | 当初予算(a)<br>( 1) | ( 1)  | ( 1)  | ( 1)  |
|                                    | 補正予算(b)  |                 |       |       |       |
|                                    | 繰越し等(c)  |                 |       |       |       |
|                                    | 合計(a+b+c)  |                 |       |       |       |
|                                    | 執行額  |                 |       |       |       |
|                                    | ( 1) 政府・民間からの出資金及び利益剰余金により運営していることから、予算額は無い。   |                 |       |       |       |
| 施策に関係する内閣の重要政策<br>(施政方針演説等のうち主なもの) | 「成長戦略フォローアップ」(令和3年6月18日閣議決定)   |                 |       |       |       |

|                    |  |                               |          |             |      |      |      |      |      |
|--------------------|--|-------------------------------|----------|-------------|------|------|------|------|------|
| 施策目標<br>(最終アウトカム)  | 新型コロナウイルス感染症等の影響を受けた事業者への支援等による、地域における総合的な経済力の向上を通じた地域経済の活性化及び地域の信用秩序の基盤強化               |                               |          |             |      |      |      |      |      |
| 中目標1               | 地域の中堅・中小企業の事業が再生   |                               |          |             |      |      |      |      |      |
| 測定指標1<br>【主要な測定指標】 | 新型コロナウイルス感染症等の影響により経営環境が悪化した支援先事業者のP/L(売上高の増加、収益性の向上など)の向上やB/S(資本の増強、負債の減少など)の改善に貢献できた割合 |                               |          |             |      |      |      |      |      |
|                    | 目標値<br>(目標年度)  | 80%<br>(R7年度)                 | 年度ごとの目標値 | R3年度        | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|                    | 基準値<br>(基準年度)  | 87%<br>(H30-R2年度平均)           | 年度ごとの実績値 | 80%         |      |      |      |      |      |
| 参考指標1              | 再生支援決定件数(累計)   |                               |          |             |      |      |      |      |      |
|                    | 参考値<br>(参考年度)  | 84件<br>(R2年度)                 | 年度ごとの実績値 | 86件         |      |      |      |      |      |
| 中目標2               | 機構のノウハウが地域金融機関へ移転し、地域における自律的な事業再生支援能力が向上   |                               |          |             |      |      |      |      |      |
| 測定指標2              | 地域金融機関と共同で組成したファンドに関し、運営ノウハウの移転が図られ、機構のGP出資持分の譲渡等を行った割合                                  |                               |          |             |      |      |      |      |      |
|                    | 目標値<br>(目標年度)  | 70%                           | 年度ごとの目標値 | R3年度        | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|                    | 基準値<br>(基準年度)  | 27%<br>(H25年度(ファンド業務開始)～R2年度) | 年度ごとの実績値 | 44%         |      |      |      |      |      |
| 参考指標2              | ファンド設立件数(累計)<br>ファンドからの支援決定件数(累計)  |                               |          |             |      |      |      |      |      |
|                    | 参考値<br>(参考年度)  | 49件<br>308件<br>(R2年度)         | 年度ごとの実績値 | 49件<br>329件 |      |      |      |      |      |
| 参考指標3              | 特定専門家派遣決定件数(累計)  |                               |          |             |      |      |      |      |      |
|                    | 参考値<br>(参考年度)  | 214件<br>(R2年度)                | 年度ごとの実績値 | 230件        |      |      |      |      |      |

|               |   |                   |          |                      |      |      |      |      |      |
|---------------|---|-------------------|----------|----------------------|------|------|------|------|------|
| 中目標3          | 事業の継続が困難な事業者の円滑な退出により、経営者の再チャレンジや地域経済の新陳代謝が促進                   |                   |          |                      |      |      |      |      |      |
| 測定指標3         | 特定支援(再チャレンジ支援)のうち、事業承継・譲渡型の事例が平成28年度～令和2年度と令和3年度～令和7年度対比で増加した割合 |                   |          |                      |      |      |      |      |      |
|               |   |                   |          | R3年度                 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|               | 目標値<br>(目標年度)   | 10%以上増加<br>(R7年度) | 年度ごとの目標値 | 10%以上増加(令和7年度までの目標値) |      |      |      |      |      |
| 基準値<br>(基準年度) | 63件<br>(H28年度～R2年度<br>の実績)                                      | 年度ごとの実績値          | 8件       |                      |      |      |      |      |      |
| 測定指標4         | 都道府県ベースで再チャレンジ支援実績のない空白地域の割合                                    |                   |          |                      |      |      |      |      |      |
|               |   |                   |          | R3年度                 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|               | 目標値<br>(目標年度)   | 10%以下<br>(R7年度)   | 年度ごとの目標値 | 10%以下(R7年度までの目標値)    |      |      |      |      | x    |
| 基準値<br>(基準年度) | 15%<br>(R2年度)   | 年度ごとの実績値          | 15%      |                      |      |      |      |      |      |
| 参考指標4         | 特定支援決定件数(累計)  |                   |          |                      |      |      |      |      |      |
|               |   |                   |          | R3年度                 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |      |
|               | 参考値<br>(参考年度)   | 144件<br>(R2年度)    | 年度ごとの実績値 | 158件                 |      |      |      |      |      |

|      |                                  |  |
|------|----------------------------------|--|
| 評価結果 | 目標達成度合いの<br>測定結果                 | (各行政機関共通区分) 相当程度進展あり<br><br>(判断根拠)<br>・測定指標3・4については、いずれも令和7年度までの目標値として設定しており、令和3年度実績値と目標値の単純比較による達成状況の判定は困難であるが、当該指標における今般の評価では、各目標値を5で除した値と令和3年度実績値の比較等により、達成状況を判定した。<br>・一部の測定指標において目標が達成されなかったが、その他の指標については、主要な指標である「測定指標1」も含め目標が達成されたことから、「相当程度進展あり」と判断した。   |
|      | 施策の分析<br>(目標達成・未達成に関する<br>要因分析等) | ・主要な指標である測定指標1(新型コロナウイルス感染症等の影響により経営環境が悪化した支援先事業者のP/Lの向上やB/Sの改善に貢献できた割合)については、目標を達成しており、機構による支援が順調に進捗し、事業者の経営改善に寄与したものと考えている。<br>(参考)測定指標1:事業再生支援案件及びファンド投資案件で、R3年度にEXITした先40件のうち、32件の事業者のP/Lの向上・B/Sが改善(=80%)<br>・測定指標2(地域金融機関と共同で組成したファンドに関し、運営ノウハウの移転が図られ、機構のGP出資持分の譲渡等を行った割合)についても目標を達成しており、機構のノウハウは順調に地域金融機関へ移転しているものと考えている。<br>(参考)測定指標2:地域金融機関と共同運営するファンド32件のうち、R3年度までに14件について機構のGP出資持分を譲渡等(=約44%)<br>・特定支援(再チャレンジ支援)に関する測定指標3・4が目標未達となったことについては、現在、事業者への官民の資金繰り支援(1)が功を奏していることから、機構への相談件数が伸びていないことが要因であると考えられる(2)。<br>(1)無利子・無担保融資の実績:政府系金融機関:6.8兆円(2020年5月) 18.0兆円(2022年2月)、民間金融機関:2.7兆円(2020年5月) 23.4兆円(2022年2月)<br>(2)機構への特定支援に関する相談件数は、2019年度は約170件であったが、2020年度以降は約70～80件程度にまで減少。政府による各種のコロナ支援策により中小零細企業等の特定支援のニーズが少なくなったことなどから、相談件数が少なかった要因の1つと認識している。 |
|      | 次期目標等への<br>反映の方向性                | 【次期の施策の方向性について】<br>引き続き推進<br><br>【目標・測定指標の見直し等について】<br>新型コロナウイルス感染症等の影響により、地域の中堅・中小企業の経営は厳しい状況にあることから、機構としては、引き続き、事業再生の枠組みを活用した支援や、地域金融機関と連携したファンドを通じた資本金の供給等に注力するとともに、地域金融機関へのノウハウ移転も進めていく必要がある。<br>前述のとおり、特定支援業務に関する測定指標3・4については、足元、事業者からの相談件数が少ないことから未達であったが、経営者の高齢化や後継者不足など中小企業をめぐる社会的な構造問題等( )が深刻化する可能性があり、機構としては、引き続き、事業継続が困難となった事業者に対する事業承継・譲渡等を後押しするため、経営者保証ガイドラインを活用した保証債務整理を支援する特定支援業務も注力すべきと認識している。<br>このため、全ての指標について、目標・測定指標の見直しは実施せず、引き続き令和7年度の目標達成に向けて取り組む。<br>( )2021年版中小企業白書「第2節 中小企業・小規模事業者の現状」参照。  |

|                     |   |
|---------------------|---|
| 学識経験を有する者の<br>知見の活用 | - |
|---------------------|---|

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| 政策評価を行う過程において<br>使用した資料その他の情報 | - |
|-------------------------------|---|

|             |                            |          |        |
|-------------|----------------------------|----------|--------|
| 担当部局・作成責任者名 | 地域経済活性化支援機構担当室<br>企画官 清水 茂 | 事後評価実施時期 | 令和4年8月 |
|-------------|----------------------------|----------|--------|

令和3年度実施施策に係る政策評価書

|                                   |  |           |       |       |       |       |
|-----------------------------------|--|-----------|-------|-------|-------|-------|
| 政策名                               | 共生社会政策   |           |       |       |       |       |
| 施策名                               | 子ども・若者育成支援推進大綱の作成・推進   |           |       |       |       |       |
| 達成すべき目標                           | <p>【施策目標】全ての子ども・若者が自らの居場所を得て、成長・活躍できる社会の実現</p> <p>【中目標(Ⅱ)1】全ての子ども・若者の健やかな育成</p> <p>【中目標(Ⅱ)2】困難を有する子ども・若者やその家族の支援</p> <p>【中目標(Ⅱ)3】創造的な未来を切り拓く子ども・若者の応援</p> <p>【中目標(Ⅰ)1】子ども・若者の成長のための社会環境の整備</p> <p>【中目標(Ⅰ)2】子ども・若者の成長を支える担い手の養成・支援</p>  |           |       |       |       |       |
| 施策の概要                             | <p>【施策の概要】</p> <p>子ども・若者育成支援推進法(平成21年法律第71号)第8条に基づく子ども・若者育成支援推進大綱(令和3年4月6日子ども・若者育成支援推進本部決定。以下「大綱」という。)に掲げられた施策を総合的に推進する。</p>   |           |       |       |       |       |
|                                   | <p>【令和3年度に実施した具体的取組】</p> <p>○体制整備<br/>子ども・若者を支える社会環境の一つとして、子ども・若者支援地域協議会、子ども・若者総合相談センターの整備を進めるとともに、当該協議会・センターの運営を担う人材を育むため、研修・会合の開催や、専門家等の派遣により支援を実施した。</p> <p>○広報啓発<br/>子ども・若者を支える環境を整えていく機運、ボランティア等として子ども・若者を支える担い手となる機運を高めるため、功労者の表彰等を実施した。</p> <p>○研修<br/>困難を有する子ども・若者も含めた全ての子ども・若者が健やかに成長できるよう、子ども・若者の成長を支える担い手の養成・支援として、子ども・若者育成支援に携わる者や、若者世代リーダーとなる者への研修を実施した。</p> <p>○子ども・若者の参画促進<br/>子ども・若者の意見表明の機会を確保することや、政策形成過程への参画を促進するため、関係府省庁からテーマを募集し、令和3年度は法教育の推進等についてウェブを通じた子ども・若者からの意見募集、関係府省職員との意見交換を実施した。</p> |           |       |       |       |       |
| 施策の予算額・執行額<br>(単位:百万円)            | 区分   |           | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|                                   | 予算の状況  | 当初予算(a)   | 177   | 155   | 145   | 175   |
|                                   |  | 補正予算(b)   | 0     | 0     | 0     |       |
|                                   |  | 繰越し等(c)   | 0     | 0     | 0     |       |
|                                   |  | 合計(a+b+c) | 177   | 155   | 145   |       |
| 執行額                               |  | 138       | 78    |       |       |       |
| 施策に関する内閣の重要政策<br>(施政方針演説等のうち主なもの) | 子ども・若者育成支援推進大綱(令和3年4月6日子ども・若者育成支援推進本部決定)   |           |       |       |       |       |

|                    |  |              |          |                |      |      |      |      |      |
|--------------------|--|--------------|----------|----------------|------|------|------|------|------|
| 施策目標<br>(最終アウトカム)  | 全ての子ども・若者が自らの居場所を得て、成長・活躍できる社会の実現                              |              |          |                |      |      |      |      |      |
| 測定指標1<br>【主要な測定指標】 | 「どこにも居場所がない」とする子ども・若者の割合                                       |              |          |                |      |      |      |      |      |
|                    |  |              |          | R3年度           | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|                    | 目標値<br>(目標年度)  | 0%<br>(R7年度) | 年度ごとの目標値 | 0%(R7年度までの目標値) |      |      |      |      | -    |
| 基準値<br>(基準年度)      | 5.4%<br>(R1年度)   | 年度ごとの実績値     |          |                |      |      |      |      |      |
| 中目標(Ⅱ)1            | 全ての子ども・若者の健やかな育成   |              |          |                |      |      |      |      |      |
| 参考指標1              | ①「今の自分が好きだ」、②「今の生活が充実している」、③「自分の将来について明るい希望を持っている」とする子ども・若者の割合 |              |          |                |      |      |      |      |      |
|                    |  |              |          | R3年度           | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |      |
| 参考値<br>(参考年度)      | ①46.5%<br>②68.9%<br>③59.3%<br>(R1年度)                           | 年度ごとの実績値     |          |                |      |      |      |      |      |
| 中目標(Ⅱ)2            | 困難を有する子ども・若者やその家族の支援   |              |          |                |      |      |      |      |      |
| 参考指標2              | 「社会生活等を円滑に営む上での困難を改善したことがある」とする子ども・若者の割合                       |              |          |                |      |      |      |      |      |
|                    |  |              |          | R3年度           | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |      |
| 参考値<br>(参考年度)      | 60.9%<br>(R1年度)  | 年度ごとの実績値     |          |                |      |      |      |      |      |
| 中目標(Ⅱ)3            | 創造的な未来を切り拓く子ども・若者の応援   |              |          |                |      |      |      |      |      |
| 参考指標3              | ①「うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む」、②「社会のために役立つことをしたい」とする子ども・若者の割合      |              |          |                |      |      |      |      |      |
|                    |  |              |          | R3年度           | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |      |
| 参考値<br>(参考年度)      | ①51.9%<br>②70.8%<br>(R1年度)                                     | 年度ごとの実績値     |          |                |      |      |      |      |      |



|         |  |  |          |                           |      |      |      |      |
|---------|--|--|----------|---------------------------|------|------|------|------|
| 中目標(Ⅰ)1 | 子供・若者の成長のための社会環境の整備                                      |  |          |                           |      |      |      |      |
| 参考指標4   | 「社会全体が一体となって子供・若者の健やかな成長を支える必要があると思う」とする人の割合             |  |          |                           |      |      |      |      |
|         |  |  |          | R3年度                      | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|         | 参考値<br>(参考年度)  | 77.2%<br>(R2年度)                          | 年度ごとの実績値 | 70.4%                     |      |      |      |      |
| 中目標(Ⅰ)2 | 子供・若者の成長を支える担い手の養成・支援                                    |  |          |                           |      |      |      |      |
| 参考指標5   | ①「どこにも助けてくれる人がいない」、②「どこにも相談できる人がいない」とする子供・若者の割合          |  |          |                           |      |      |      |      |
|         |  |  |          | R3年度                      | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|         | 参考値<br>(参考年度)  | ①11.3%<br>②21.8%<br>(R1年度)               | 年度ごとの実績値 |                           |      |      |      |      |
| 参考指標6   | ①支援した地方公共団体数、②支援体制の整備数(子ども・若者支援地域協議会、子ども・若者総合相談センターの合計数) |  |          |                           |      |      |      |      |
|         |  |  |          | R3年度                      | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|         | 参考値<br>(参考年度)  | ①22団体(延べ)<br>②224<br>(R2年度)              | 年度ごとの実績値 | ①23団体<br>(延べ)<br>②236     |      |      |      |      |
| 参考指標7   | ①強調月間の認知度、②内閣府青少年担当HPのPV数、③表彰件数                          |  |          |                           |      |      |      |      |
|         |  |  |          | R3年度                      | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|         | 参考値<br>(参考年度)  | ① -<br>②42,813<br>③31件<br>(R2年度)         | 年度ごとの実績値 | ①6.3%<br>②44,062<br>③36件  |      |      |      |      |
| 参考指標8   | ①研修の参加者数、②参加者の満足度  |  |          |                           |      |      |      |      |
|         |  |  |          | R3年度                      | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|         | 参考値<br>(参考年度)  | ①1,399<br>② -<br>(R1年度)                  | 年度ごとの実績値 | ①1,087<br>②93.1%          |      |      |      |      |
| 参考指標9   | ①意見提出件数、②意見交換会の参加者数、③意見交換会参加者の満足度                        |  |          |                           |      |      |      |      |
|         |  |  |          | R3年度                      | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|         | 参考値<br>(参考年度)  | ①941件<br>(R2年度)<br>②87人<br>(R1年度)<br>③ - | 年度ごとの実績値 | ①1,833件<br>②63人<br>③86.7% |      |      |      |      |

|      |                          |   |
|------|--------------------------|---|
| 評価結果 | 目標達成度合いの測定結果             | (各行政機関共通区分) ③ 相当程度進展あり<br>(判断根拠) 測定指標1について、新たな子供・若者育成支援推進大綱に基づき取組を進める初年度であり、現時点では実績値の更新ができない。一方で、参考指標のうち中目標(アウトカム)に係る参考指標において参考値を下回ったことから目標を達成したとまでは言えないものの、コロナ禍で数字が下がった参考指標等を除き、数値の伸びが見られることから、目標の達成に向けて相当程度進展ありと判断した。   |
|      | 施策の分析(目標達成・未達成に関する要因分析等) | 参考指標のうち中目標(アウトカム)に係る参考指標4(体制整備)について参考値を下回っており、目標の達成に向けて一層の努力が必要であると考えているが、結果を分析してみると、昨年度の結果に比べ「そう思う」という回答が80代を除いた全ての年代において減少し、「どちらともいえない」という回答が全ての年代において増加していることから、コロナ禍が長期化する中で、地域等で互いに連携・協働していくことの重要性は認識しつつも、実際に行うことは難しいと考える者が増えたのではないかと考えられる。参考指標6(体制整備関係)、参考指標7(広報啓発関係)については、参考年度と同水準もしくはそれ以上の数値となっており、参考指標9①(子供・若者の参画促進関係)子供・若者からの意見提出件数については参考年度の数値の約2倍に増加しており、施策に一定程度の進展がみられたものと考えられる。一方で、参考指標8(研修関係)、参考指標9②(子供・若者の参画促進関係)については、参考値を下回っている。これらは研修・意見交換会の参加者数であり、その要因としては、コロナ禍において対面による開催が難しく、オンライン形式は初めての取組だったこともあり参加者の上限を低く設定したこと等がコロナ流行前の令和元年度数値より下回ったものと考えられる。 |
|      | 次期目標等への反映の方向性            | 【次期の施策の方向性について】<br>引き続き推進<br>【目標・測定指標の見直し等について】<br>今回の評価結果を踏まえて、引き続き目標達成に向けて取り組んでいく。なお、本施策については、令和5年度より子ども家庭庁に移管される予定である。   |

|                 |   |
|-----------------|---|
| 学識経験を有する者の知見の活用 | - |
|-----------------|---|

|                           |   |
|---------------------------|---|
| 政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報 | - |
|---------------------------|---|

|             |                                      |          |        |
|-------------|--------------------------------------|----------|--------|
| 担当部局・作成責任者名 | 政策統括官(政策調整担当)<br>青少年企画・支援担当参事官 児玉 大輔 | 事後評価実施時期 | 令和4年8月 |
|-------------|--------------------------------------|----------|--------|

令和3年度実施施策に係る政策評価書

|                                   |   |  |          |                                      |       |      |      |          |
|-----------------------------------|---|--|----------|--------------------------------------|-------|------|------|----------|
| 政策名                               | 共生社会政策  |  |          |                                      |       |      |      |          |
| 施策名                               | 交通安全基本計画の作成・推進  |  |          |                                      |       |      |      |          |
| 達成すべき目標                           | <b>【施策目標】</b> 交通事故のない社会を目指す<br><b>【中目標1】</b> 交通安全に対する国民意識が向上し、交通事故を起こさない、交通事故に遭わない行動への変容が起こる<br><b>【中目標2】</b> 交通事故の発生を抑制  |  |          |                                      |       |      |      |          |
| 施策の概要                             | <b>【施策の概要】</b><br>交通安全対策基本法(昭和45年法律第110号)に基づき作成された「第11次交通安全基本計画」(令和3年3月29日中央交通安全対策会議決定)では、令和3年度から令和7年度までの5年間に講ずべき交通安全に関する施策の大綱を定めている。同基本計画に基づき、国の関係行政機関及び地方公共団体においては、交通の状況や地域の実態に即して、交通の安全に関する施策を具体的に定め、これを強力に推進する。また、内閣府においては、道路交通の安全に関する調査研究の推進を図るとともに、交通安全思想の普及・啓発を図り、交通ルールの遵守と正しいマナーの実践を習慣付けるため「春・秋の全国交通安全運動」、「交通指導員等交通ボランティア支援事業」などの各種事業を、関係省庁・都道府県・政令指定都市・関係団体等と連携を図りつつ推進する。<br><b>【令和3年度に実施した具体的取組】</b><br>○春・秋の全国交通安全運動推進事業<br>全国交通安全運動の機会を通じて、国民に交通安全思想の普及・浸透を図るため、推進要綱を作成するとともに、ポスター・チラシを作成し、都道府県、関係団体等へ配布した。(春:4/6~4/15、秋:9/21~9/30)<br>○交通安全フォーラムの開催<br>学識経験者等の専門家による基調講演、パネルディスカッションを実施し、交通安全意識の向上を図った。(11/11 山口県KDDI維新ホール)<br>○交通指導員等交通ボランティア支援事業<br>交通指導員を始めとした交通ボランティア等の活動・取組を支援するための講習会を実施した。<br>(交通安全指導者養成講座:12/6~8 市ヶ谷)<br>(交通ボランティア等ブロック講習会:京都府 9/2~3、茨城県 9/15、熊本県 10/14、富山県 10/21、岡山県 10/26、北海道 11/8~9、福島県 11/18)<br>○地域提案型交通安全支援事業<br>地方公共団体の提案を受け、当該地域に必要な交通安全に資する事業を実施した。(大阪府 10/14・19、兵庫県 11/1、岩手県 11/21)<br>○高齢運転者交通安全推進事業<br>高齢運転者への指導力を向上させるため、交通安全指導員向けの講習会を開催し、高齢運転者の交通事故防止を図った。<br>(千葉県会場 11/26(第1回)・1/11(第2回)、徳島県会場 11/17(第1回)・1/21(第2回)) |  |          |                                      |       |      |      |          |
| 施策の予算額・執行額<br>(単位:百万円)            | 区分  | 令和元年度                                      | 令和2年度    | 令和3年度                                | 令和4年度 |      |      |          |
|                                   | 予算の状況   | 当初予算(a)                                    | 86       | 83                                   | 78    | 76   |      |          |
|                                   |   | 補正予算(b)                                    | -        | -                                    | -     | -    |      |          |
|                                   |   | 繰越し等(c)                                    | -        | -                                    | -     | -    |      |          |
|                                   |   | 合計(a+b+c)                                  | 86       | 83                                   | 78    | -    |      |          |
| 執行額                               | 69  | 51   | 64       |                                      |       |      |      |          |
| 施策に関する内閣の重要政策<br>(施政方針演説等のうち主なもの) | 第11次交通安全基本計画(令和3年3月29日中央交通安全対策会議決定)   |  |          |                                      |       |      |      |          |
| 施策目標<br>(最終アウトカム)                 | 交通事故のない社会を目指す   |  |          |                                      |       |      |      |          |
| 測定指標1<br>【主要な測定指標】                | 第11次交通安全基本計画の道路交通の安全についての目標<br>①24時間死者数 ②重傷者数   |  |          |                                      |       |      |      |          |
|                                   |   |  | R3年度     | R4年度                                 | R5年度  | R6年度 | R7年度 | 達成状況     |
|                                   | 目標値<br>(目標年度)   | ①2,000人以下<br>②22,000人以下<br>(令和7年度)         | 年度ごとの目標値 | ①2,000人以下<br>②22,000人以下<br>(令和7年度まで) |       |      |      | ①○<br>②△ |
|                                   | 基準値<br>(基準年度)   | ①2,839人<br>②27,775人<br>(令和2年度)             | 年度ごとの実績値 | ①2,636人<br>②27,204人                  |       |      |      |          |
| 中目標1                              | 交通安全に対する国民意識が向上し、交通事故を起こさない、交通事故に遭わない行動への変容が起こる   |  |          |                                      |       |      |      |          |
| 測定指標2<br>【主要な測定指標】                | 春・秋の全国交通安全運動を始めとした施策が、交通安全に対する国民への意識向上に役立っていると思う人の割合  |  |          |                                      |       |      |      |          |
|                                   |   |  | R3年度     | R4年度                                 | R5年度  | R6年度 | R7年度 | 達成状況     |
|                                   | 目標値<br>(目標年度)   | 55%<br>(令和7年度)                             | 年度ごとの目標値 | 55%<br>(令和7年度まで)                     |       |      |      | △        |
|                                   | 基準値<br>(基準年度)   | 41.3%<br>(令和2年度)                           | 年度ごとの実績値 | 35.1%                                |       |      |      |          |
| 測定指標3                             | 自動車の運転、自転車の運転や歩行の際に、交通事故を起こさない、交通事故に遭わない行動をとる人の割合   |  |          |                                      |       |      |      |          |
|                                   |   |  | R3年度     | R4年度                                 | R5年度  | R6年度 | R7年度 | 達成状況     |
|                                   | 目標値<br>(目標年度)   | 85%<br>(令和7年度)                             | 年度ごとの目標値 | 85%<br>(令和7年度まで)                     |       |      |      | △        |
|                                   | 基準値<br>(基準年度)   | 74.2%<br>(令和2年度)                           | 年度ごとの実績値 | 70.2%                                |       |      |      |          |
| 参考指標1                             | 春・秋の全国交通安全運動推進事業における協賛団体数   |  |          |                                      |       |      |      |          |
|                                   |   |  | R3年度     | R4年度                                 | R5年度  | R6年度 | R7年度 |          |
|                                   | 参考値<br>(参考年度)   | 春:153<br>秋:153<br>(令和2年度)                  | 年度ごとの実績値 | 春:153<br>秋:154                       |       |      |      |          |
| 参考指標2                             | 交通安全フォーラムにおける<br>①実施回数 ②参加者数  |  |          |                                      |       |      |      |          |
|                                   |   |  | R3年度     | R4年度                                 | R5年度  | R6年度 | R7年度 |          |
|                                   | 参考値<br>(参考年度)   | ①1回<br>②394回<br>(動画視聴回数)<br>(令和2年度)        | 年度ごとの実績値 | ①1回<br>②90回<br>(動画視聴回数)              |       |      |      |          |
| 参考指標3                             | 地域提案型交通安全支援事業における<br>①地方からの提案件数 ②実施回数   |  |          |                                      |       |      |      |          |
|                                   |   |  | R3年度     | R4年度                                 | R5年度  | R6年度 | R7年度 |          |
|                                   | 参考値<br>(参考年度)   | ①5件<br>②0回(新型コロナウイルスの影響を受け事業中止)<br>(令和2年度) | 年度ごとの実績値 | ①3件<br>②3回                           |       |      |      |          |
| 参考指標4                             | 交通指導員等交通ボランティア支援事業における<br>①講習会の実施回数 ②参加者数 ③交通安全指導者養成講座の受講者に占める30代以下の割合  |  |          |                                      |       |      |      |          |
|                                   |   |  | R3年度     | R4年度                                 | R5年度  | R6年度 | R7年度 |          |
|                                   | 参考値<br>(参考年度)   | ①8回<br>②626人<br>③36.8%(42/114)<br>(令和元年度)  | 年度ごとの実績値 | ①8回<br>②279人<br>③40.6%<br>(39/96)    |       |      |      |          |



|       |                                       |   |          |                                      |      |      |      |
|-------|---------------------------------------|---|----------|--------------------------------------|------|------|------|
| 参考指標5 | 高齢運転者交通安全推進事業における<br>①講習会の実施回数 ②参加者数  |   | R3年度     | R4年度                                 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|       | 参考値<br>(参考年度)                         | ①2回<br>②26人<br>(令和2年度)                          | 年度ごとの実績値 | ①4回<br>②66人                          |      |      |      |
| 中目標2  | 道路交通事故の発生を抑制                          |   |          |                                      |      |      |      |
| 参考指標6 | 春・秋の全国交通安全運動期間中における<br>①24時間死者数 ②重傷者数 |   | R3年度     | R4年度                                 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|       | 参考値<br>(参考年度)                         | ①春:63人<br>秋:87人<br>②春:641人<br>秋:756人<br>(令和2年度) | 年度ごとの実績値 | ①春:56人<br>秋:63人<br>②春:730人<br>秋:706人 |      |      |      |

|      |                              |  |
|------|------------------------------|--|
| 評価結果 | 目標達成度合いの測定結果                 | (各行政機関共通区分) ④ 進展が大きくない<br><br>(判断根拠)<br>第11次交通安全基本計画における令和7年度までの目標値達成には、24時間死者数については各年約6.8%ずつの減少、重傷者数については各年約4.6%ずつの減少を要するところ、同基準により令和3年度の目標値を設定した(①24時間死者数2,647人以下 ②重傷者数26,510人以下)。<br>同計画に基づく諸施策を総合的に推進した結果、基準値である令和2年度と令和3年度の24時間死者数及び重傷者数を比べると、24時間死者数は203人減少して2,636人、重傷者数は571人減少して27,204人であり、24時間死者数については目標値を達成したものの、重傷者数については達成できなかったと判断した。  |
|      | 施策の分析<br>(目標達成・未達成に関する要因分析等) | ○ 測定指標1について<br>第11次交通安全基本計画に基づき、警察庁、国土交通省及び文部科学省等の関係機関、地方公共団体及び関係民間団体と緊密に連携して、「ゾーン30」の整備、歩道の設置、拡充等の道路交通環境の整備や、全国交通安全運動をはじめとする交通安全啓発活動及び交通指導取締の強化等を推進した。<br>内閣府としては、政府全体のとりまとめ役として、令和3年6月、千葉県八街市において発生した子供が犠牲となる痛ましい事故に端を発し策定された「通学路等における交通安全の確保及び飲酒運転の根絶に係る緊急対策」のとりまとめのほか、交通ボランティアや高齢者等に対する講習会、参加型交通安全教室の実施や、交通安全フォーラム(学識経験者等の専門家による研究発表等を通じて国民の交通安全意識の高揚を図るもの。)の開催等、地域と連携した交通安全啓発活動を実施した。<br>以上の諸施策を関係機関と連携して総合的かつ強力に推進した結果、交通事故抑止効果を生み、また、国民に対する「人優先」の交通安全思想の浸透を着実に促進したことにより、交通事故による24時間死者数及び重傷者数の減少につながった。<br><br>○ 測定指標2及び3について<br>国民に対する「人優先」の交通安全思想の浸透を着実に促進したものの、交通安全に対する国民意識という面では、目標を達成することができなかった。<br>主な要因として、新型コロナウイルス感染症の影響により、街頭キャンペーンや各種交通安全教室等の広報啓発活動に制限が課され、交通安全思想の促進が十分ではなかったことや、若い年代ほど交通安全対策に関心の薄い人が多くなる傾向にあるとの調査結果を踏まえ、若い年代に焦点を当てた広報啓発活動が不十分であったと考えられる。   |
|      | 次期目標等への反映の方向性                | 【次期の施策の方向性について】<br>引き続き推進<br><br>【目標・測定指標の見直し等について】<br>○測定指標1について<br>引き続き目標達成に努める。<br>交通事故発生件数及び負傷者数は、令和3年まで17年連続で減少したほか、24時間死者数も現行の交通事故統計となった昭和23年以降で最小となっており、第11次交通安全基本計画の諸施策に一定の事故抑止効果は認められる一方で、令和3年中の全交通事故死者数に占める65歳以上の高齢者の割合は57.7%と依然として高水準であるほか、交通事故死者数を状態別にみると、歩行者の割合が35.7%と最も多くなっている。<br>こうした状況を踏まえ、高齢者、子供等をはじめとする交通弱者の安全の確保等「人優先」の交通安全思想を基本とし、各種の交通安全対策を関係機関、地方公共団体及び関係民間団体と緊密に連携しつつ、強力に推進していく。<br><br>○測定指標2及び3について<br>引き続き目標達成に努める。<br>測定指標における意識調査結果では、「春・秋の全国交通安全運動を始めとした施策が、交通安全に対する国民への意識向上に役立っていると思う人の割合」は35.1%であり、50代以降は年代が上がるにつれ割合は高くなり、70代で49.7%、80代で51.7%と基準値を超えているものの、20代から40代ではいずれも30%以下となっている。<br>また、「自動車の運転、自転車の運転や歩行の際に、交通事故を起こさない、交通事故に遭わない行動をとる人の割合」は70.2%であり、20代から70代では年代が上がるにつれ割合は高くなり、60代で80.0%、70代で87.0%、80代で78.9%と、基準値を超えているものの、50代では70%以下となっており、相対的に若い年代の交通安全に関する意識が低い傾向にある。<br>こうした状況を踏まえ、今後、春・秋の全国交通安全運動を始めとした普及啓発活動を実施するに当たり、若い年代層の関心を深めるため、ソーシャルメディア等を活用して各地における好事例の横展開を図り、交通安全フォーラムや交通ボランティアブロック講習会等の講演・講習会においては、開催場所、テーマの設定方法など、地域の実情に応じた多角的検討を図るなど、交通安全思想の更なる普及徹底に資する交通安全啓発活動を検討し、強力に推進していく。 |

|                 |   |
|-----------------|---|
| 学識経験を有する者の知見の活用 | 「第11次交通安全基本計画」(令和3年3月29日中央交通安全対策会議決定)策定にあたり、学識経験者等19名の専門委員からなる中央交通安全対策会議専門委員会議を計4回開催し、各委員からの意見等を踏まえながら目標値を設定した。 |
|-----------------|---|

|                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| 政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報 | ○警察庁統計資料(令和3年度における交通事故発生状況) |
|---------------------------|-----------------------------|

|             |                                      |          |        |
|-------------|--------------------------------------|----------|--------|
| 担当部局・作成責任者名 | 政策統括官(政策調整担当)<br>参事官(交通安全対策担当) 寺本 耕一 | 事後評価実施時期 | 令和4年8月 |
|-------------|--------------------------------------|----------|--------|

令和3年度実施施策に係る政策評価書

|                                  |  |       |       |       |       |
|----------------------------------|--|-------|-------|-------|-------|
| 政策名                              | 男女共同参画   |       |       |       |       |
| 施策名                              | 男女共同参画基本計画の作成・推進   |       |       |       |       |
| 達成すべき目標                          | <p>【施策目標】男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を形成すること</p> <p>【中目標1】あらゆる分野における女性の参画拡大<br/>・政治分野における女性の参画拡大</p> <p>【中目標2】あらゆる分野における女性の参画拡大<br/>・行政分野における女性の参画拡大</p> <p>【中目標3】あらゆる分野における女性の参画拡大<br/>・企業における女性の参画拡大</p> <p>【中目標4】あらゆる分野における女性の参画拡大<br/>・地域における男女共同参画・女性活躍の推進</p> <p>【中目標5】男女共同参画の視点に立った安全・安心な暮らしの実現<br/>・女性に対するあらゆる暴力の根絶</p> <p>【中目標6】男女共同参画の視点に立った安全・安心な暮らしの実現<br/>・女性の視点の反映による災害対応力の強化</p> <p>【中目標7】男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備<br/>・男女共同参画に関する意識の浸透</p>  |       |       |       |       |
| 施策の概要                            | <p>【施策の概要】</p> <p>男女共同参画基本計画に基づき、あらゆる分野における女性の参画拡大、女性に対する暴力の根絶、男女共同参画の裾野を広げる地域における取組などを行う。</p> <p>【令和3年度に実施した具体的取組】</p> <p>「第5次男女共同参画基本計画」(令和2年12月25日閣議決定)及び「女性活躍・男女共同参画の重点方針2021」(令和3年6月16日すべての女性が輝く社会づくり本部・男女共同参画推進本部決定)等に基づき、具体的な取組を進めた。</p> <p>内閣府においては、主に以下の取組を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政治分野における男女共同参画の推進(政党への要請、政治分野におけるハラスメント防止研修教材の作成等)</li> <li>・行政分野における女性の参画拡大(「市区町村女性参画状況見える化マップ」「女性活躍推進法「見える化」サイト」等により、国・地方公共団体における女性の活躍状況を比較できる形で公表等)</li> <li>・企業における女性の参画拡大(国及び独立行政法人等の調達において、ワーク・ライフ・バランス等を推進する企業を加点評価する取組を実施等)</li> <li>・地域における男女共同参画・女性活躍の推進(地域女性活躍推進交付金により、地方公共団体が地域の実情に応じて行う取組を支援等)</li> <li>・女性に対するあらゆる暴力の根絶(性犯罪・性暴力対策、配偶者等からの暴力への対策等)</li> <li>・女性の視点の反映による災害対応力の強化(「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」の内容を学ぶための実践的学習プログラムの作成等)</li> <li>・男女共同参画に関する意識の浸透(性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究の実施、固定的性別役割分担に捉われないフリーイラスト素材の作成等)</li> </ul> |       |       |       |       |
| 施策の予算額・執行額<br>(単位:百万円)           | 区分   | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 予算の状況                            | 当初予算(a)  | 702   | 976   | 966   | 1,430 |
|                                  | 補正予算(b)  | 148   | 375   | 1,279 |       |
|                                  | 繰越し等(c)  | 155   | 150   | 2,293 |       |
|                                  | 合計(a+b+c)  | 1005  | 1,501 | 4,538 |       |
| 執行額                              | 766  | 1,213 |       |       |       |
| 施策に係る内閣の重要政策<br>(施政方針演説等のうち主なもの) | 第5次男女共同参画基本計画、経済財政運営と改革の基本方針2021、成長戦略フォローアップ、女性活躍・男女共同参画の重点方針2021、第204回国会における菅内閣総理大臣施政方針演説、第207回国会における岸田内閣総理大臣所信表明演説、第208回国会における岸田内閣総理大臣施政方針演説   |       |       |       |       |

|                    |  |                           |          |       |      |      |      |      |      |
|--------------------|--|---------------------------|----------|-------|------|------|------|------|------|
| 施策目標<br>(最終アウトカム)  | 男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を形成すること |                           |          |       |      |      |      |      |      |
| 測定指標1<br>【主要な測定指標】 | 「社会全体における男女の地位の平等感」における「平等」と答えた者の割合                      |                           |          |       |      |      |      |      |      |
|                    | 目標値<br>(目標年度)  | ほぼすべてを目標としつつ、当面50%(2025年) | 年度ごとの目標値 | R3年度  | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|                    | 基準値<br>(基準年度)  | 21.2%<br>(2019年)          | 年度ごとの実績値 |       |      |      |      |      | -    |
| 中目標1               | あらゆる分野における女性の参画拡大<br>・政治分野における女性の参画拡大                    |                           |          |       |      |      |      |      |      |
| 測定指標2-1            | 衆議院議員の候補者に占める女性の割合(※1)                                   |                           |          |       |      |      |      |      |      |
|                    | 目標値<br>(目標年度)  | 35%<br>(2025年)            | 年度ごとの目標値 | R3年度  | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|                    | 基準値<br>(基準年度)  | 17.8%<br>(2017年)          | 年度ごとの実績値 | 17.7% |      |      |      |      | △    |
| 測定指標2-2            | 参議院議員の候補者に占める女性の割合(※1)                                   |                           |          |       |      |      |      |      |      |
|                    | 目標値<br>(目標年度)  | 35%<br>(2025年)            | 年度ごとの目標値 | R3年度  | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|                    | 基準値<br>(基準年度)  | 28.1%<br>(2019年)          | 年度ごとの実績値 |       |      |      |      |      | -    |
| 測定指標2-3            | 統一地方選挙の候補者に占める女性の割合(※2)                                  |                           |          |       |      |      |      |      |      |
|                    | 目標値<br>(目標年度)  | 35%<br>(2025年)            | 年度ごとの目標値 | R3年度  | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|                    | 基準値<br>(基準年度)  | 16.0%<br>(2019年)          | 年度ごとの実績値 |       |      |      |      |      | -    |



|               |   |                                       |                           |                    |      |      |      |      |      |
|---------------|---|---------------------------------------|---------------------------|--------------------|------|------|------|------|------|
| 中目標2          | あらゆる分野における女性の参画拡大<br>・行政分野における女性の参画拡大         |                                       |                           |                    |      |      |      |      |      |
| 測定指標3-1       | 国家公務員の各役職段階に占める女性の割合・本省課室長相当職                 |                                       |                           |                    |      |      |      |      |      |
|               |   |                                       |                           | R3年度               | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|               | 目標値<br>(目標年度)                                 | 10%<br>(2025年度末)                      | 年度ごとの目標値                  | 10%(2025年度末までの目標値) |      |      |      |      | ○    |
| 基準値<br>(基準年度) | 5.9%<br>(2020年7月)                             | 年度ごとの実績値                              | 6.4%                      |                    |      |      |      |      |      |
| 測定指標3-2       | 都道府県職員の各役職段階に占める女性の割合・本庁課長相当職                 |                                       |                           |                    |      |      |      |      |      |
|               |   |                                       |                           | R3年度               | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|               | 目標値<br>(目標年度)                                 | 16.0%<br>(2025年度末)                    | 年度ごとの目標値                  | 16%(2025年度末までの目標値) |      |      |      |      | ○    |
| 基準値<br>(基準年度) | 12.2%<br>(2020年)                              | 年度ごとの実績値                              | 13.0%                     |                    |      |      |      |      |      |
| 測定指標3-3       | 市町村職員の各役職段階に占める女性の割合・本庁課長相当職                  |                                       |                           |                    |      |      |      |      |      |
|               |   |                                       |                           | R3年度               | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|               | 目標値<br>(目標年度)                                 | 22%<br>(2025年度末)                      | 年度ごとの目標値                  | 22%(2025年度末までの目標値) |      |      |      |      | ○    |
| 基準値<br>(基準年度) | 市町村17.8%<br>〔政令指定都市16.9%〕<br>(2020年)          | 年度ごとの実績値                              | 市町村18.4%<br>〔政令指定都市17.6%〕 |                    |      |      |      |      |      |
| 中目標3          | あらゆる分野における女性の参画拡大<br>・企業における女性の参画拡大           |                                       |                           |                    |      |      |      |      |      |
| 測定指標4-1       | 民間企業の雇用者の係長相当職に占める女性の割合                       |                                       |                           |                    |      |      |      |      |      |
|               |   |                                       |                           | R3年度               | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|               | 目標値<br>(目標年度)                                 | 30%<br>(2025年)                        | 年度ごとの目標値                  | 30%(2025年までの目標値)   |      |      |      |      | ○    |
| 基準値<br>(基準年度) | 18.9%<br>(2019年)                              | 年度ごとの実績値                              | 20.7%                     |                    |      |      |      |      |      |
| 測定指標4-2       | 民間企業の雇用者の課長相当職に占める女性の割合                       |                                       |                           |                    |      |      |      |      |      |
|               |   |                                       |                           | R3年度               | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|               | 目標値<br>(目標年度)                                 | 18%<br>(2025年)                        | 年度ごとの目標値                  | 18%(2025年までの目標値)   |      |      |      |      | ○    |
| 基準値<br>(基準年度) | 11.4%<br>(2019年)                              | 年度ごとの実績値                              | 12.4%                     |                    |      |      |      |      |      |
| 測定指標4-3       | 民間企業の雇用者の部長相当職に占める女性の割合                       |                                       |                           |                    |      |      |      |      |      |
|               |   |                                       |                           | R3年度               | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|               | 目標値<br>(目標年度)                                 | 12%<br>(2025年)                        | 年度ごとの目標値                  | 12%(2025年までの目標値)   |      |      |      |      | △    |
| 基準値<br>(基準年度) | 6.9%<br>(2019年)                               | 年度ごとの実績値                              | 7.7%                      |                    |      |      |      |      |      |
| 参考指標1         | ワーク・ライフ・バランス等を推進する企業を公共調達等において加点評価する取組の実施状況   |                                       |                           |                    |      |      |      |      |      |
|               |   |                                       |                           | R3年度               | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |      |
|               | 参考値<br>(参考年度)                                 | 金額:1兆2700億円<br>件数:10,200件<br>(2019年度) | 年度ごとの実績値                  | 令和4年度末<br>公表予定     |      |      |      |      |      |
| 中目標4          | あらゆる分野における女性の参画拡大<br>・地域における男女共同参画・女性活躍の推進    |                                       |                           |                    |      |      |      |      |      |
| 測定指標5         | 地域における10代～20代女性の人口に対する転出超過数の割合                |                                       |                           |                    |      |      |      |      |      |
|               |   |                                       |                           | R3年度               | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|               | 目標値<br>(目標年度)                                 | 0.80%<br>(2025年)                      | 年度ごとの目標値                  | 0.80%(2025年までの目標値) |      |      |      |      | ○    |
| 基準値<br>(基準年度) | 1.33%<br>(2019年)                              | 年度ごとの実績値                              | 1.07%                     |                    |      |      |      |      |      |
| 参考指標2         | 地域女性活躍推進交付金事業を行っている都道府県数                      |                                       |                           |                    |      |      |      |      |      |
|               |   |                                       |                           | R3年度               | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |      |
|               | 参考値<br>(参考年度)                                 | 39都道府県<br>(2020年)                     | 年度ごとの実績値                  | 44道府県              |      |      |      |      |      |
| 中目標5          | 男女共同参画の視点に立った安全・安心な暮らしの実現<br>・女性に対するあらゆる暴力の根絶 |                                       |                           |                    |      |      |      |      |      |
| 測定指標6         | 行政が関与する性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター、支援拠点等の設置件数  |                                       |                           |                    |      |      |      |      |      |
|               |   |                                       |                           | R3年度               | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | 達成状況 |
|               | 目標値<br>(目標年度)                                 | 60か所<br>(2025年)                       | 年度ごとの目標値                  | 60か所(2025年までの目標値)  |      |      |      |      | ○    |
| 基準値<br>(基準年度) | 47か所<br>(2020年4月)                             | 年度ごとの実績値                              | 52か所<br>(2021年11月)        |                    |      |      |      |      |      |

|         |   |                 |          |           |      |      |      |      |
|---------|---|-----------------|----------|-----------|------|------|------|------|
| 参考指標3   | DV被害者等セーフティネット強化支援パイロット事業に参加した地方公共団体数                               |                 |          | R3年度      | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|         | 参考値<br>(参考年度)   | 24か所<br>(2020年) | 年度ごとの実績値 | 26か所      |      |      |      |      |
|         |   |                 |          |           |      |      |      |      |
| 中目標6    | 男女共同参画の視点に立った安全・安心な暮らしの実現<br>・女性の視点の反映による災害対応力の強化                   |                 |          |           |      |      |      |      |
| 参考指標4-1 | 「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～」に基づく地方公共団体の取組状況のフォローアップ結果 |                 |          | R3年度      | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|         | 参考値<br>(参考年度)   | —               | 年度ごとの実績値 | 集計中       |      |      |      |      |
|         |   |                 |          |           |      |      |      |      |
| 参考指標4-2 | 災害発生時または予測時における地方公共団体へのガイドラインの通知回数                                  |                 |          | R3年度      | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|         | 参考値<br>(参考年度)   | 5回<br>(2020年)   | 年度ごとの実績値 | 6回        |      |      |      |      |
|         |   |                 |          |           |      |      |      |      |
| 中目標7    | 男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備<br>・男女共同参画に関する意識の浸透                            |                 |          |           |      |      |      |      |
| 参考指標5   | 男女共同参画局ホームページの調査結果等のPV数   |                 |          | R3年度      | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|         | 参考値<br>(参考年度)   | —               | 年度ごとの実績値 | 6,226,497 |      |      |      |      |
|         |   |                 |          |           |      |      |      |      |

※1 政府が政党に働きかける際に、政府として達成を目指す努力目標であり、政党の自律的行動を制約するものではなく、また、各政党が自ら達成を目指す目標ではない。

※2 政府が政党等への要請、「見える化」の推進、実態の調査や好事例の横展開及び環境の整備等に取り組むとともに、政党をはじめ、国会、地方公共団体、地方六団体等の様々な関係主体と連携することにより、全体として達成することが期待される目標数値であり、各団体の自律的行動を制約するものではなく、また各団体が自ら達成を目指す目標ではない。現状値は、2019年統一地方選挙における都道府県・政令指定都市・市区町村議会議員選挙の合計。

|      |                              |  |
|------|------------------------------|--|
| 評価結果 | 目標達成度合いの測定結果                 | (各行政機関共通区分) ③ 相当程度進展あり<br><br>(判断根拠)<br><br>・政策評価における測定指標は、第5次男女共同参画基本計画の成果目標(令和7年度までを目途として設定)から選定しているところ、令和3年度は第5次男女共同参画基本計画に基づき取組を進める初年度であり、令和3年度実績値と目標値の単純比較による達成状況の判定は困難である。このため、令和3年度政策評価では、目標値と基準値の差を5で除した値と基準値の和等を令和3年度の目標値と仮定し、それと令和3年度実績値との比較により、達成状況を判定した。<br>また、主要な測定指標である測定指標1について、令和3年度は調査を行っておらず実績値が測定できないため、他の測定指標の達成状況をもとに目標達成度合いを判断した。  |
|      | 施策の分析<br>(目標達成・未達成に関する要因分析等) | ・令和2年12月に策定した第5次男女共同参画基本計画に基づき取組を進める初年度であり、施策は進捗しているものの、目標達成には及ばないことから、施策の更なる推進が必要である。<br>・2021年の「ジェンダー・ギャップ指数」では、日本は156か国中120位と先進国の中でも極めて低い水準にあり、特に、経済分野と政治分野のスコアが低調である。令和元年の女性活躍推進法改正や、令和3年6月の候補者男女均等法(政治分野における男女共同参画の推進に関する法律)改正など、女性活躍を推進するための法律・制度が整備されてきたことにより、民間企業の各役職段階に占める女性の割合(測定指標4-1～4-3)が着実に上昇するなど、一定の進捗は見られる。しかしながら、我が国の男女共同参画の推進状況は、国際的に見て非常に遅れており、女性の登用・採用を含めた政策・方針決定過程への女性の参画拡大が急務である。<br>・我が国における女性の参画拡大の進展が未だ十分でない要因として、経済分野及び政治分野における取組が遅れていることに加え、社会全体において固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)が存在していることが考えられる。このため、様々な世代で固定的な性別役割分担意識等を植え付けず、また、押し付けない取組、男女双方の意識を変えて行く取組が重要である。<br>・加えて、長引く新型コロナウイルス感染症の拡大は、特に女性の就業や生活に様々な形で深刻な影響を与えている。コロナの感染拡大の影響が女性に強く表れていることは、平時の男女共同参画の取組の遅れを示すものであり、コロナ対策において女性に最大限配慮するとともに、構造的な問題にも取り組む必要がある。 |
|      | 次期目標等への反映の方向性                | 【次期の施策の方向性について】<br>引き続き推進<br><br>【目標・測定指標の見直し等について】<br>・令和3年9月以降、男女共同参画会議の下に設置されている「計画実行・監視専門調査会」において、第5次男女共同参画基本計画の実行状況の監視を行うとともに、令和4年夏を目途とする「女性活躍・男女共同参画の重点方針2022」の策定に向けた議論を行っている。重点方針2022は、①女性の経済的な自立、②女性が尊厳と誇りを持って生きられる社会の実現、③男性の家庭・地域社会における活躍、④女性の登用目標達成(第5次男女共同参画基本計画の着実な実行)の4つの柱に沿って、政府全体として今後重点的に取り組むべき具体策を取りまとめる予定である。<br>・また、第5次男女共同参画基本計画の成果目標の達成状況について、中間年(令和5年度目途)にフォローアップ及び点検・評価を実施することとしている。  |

|                 |   |
|-----------------|---|
| 学識経験を有する者の知見の活用 | 「第5次男女共同参画基本計画」に基づく各府省の取組を進めるため、男女共同参画会議の下、以下の専門調査会を設置し、検討を行っている。<br>●計画実行・監視専門調査会(令和3年5月からこれまでに計15回開催)<br>●女性に対する暴力に関する専門調査会(令和3年5月からこれまでに計4回開催) |
|-----------------|---|

|                           |   |
|---------------------------|---|
| 政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報 | 総務省「衆議院議員総選挙・最高裁判所裁判官国民審査結果調」、総務省「参議院議員通常選挙結果調」、総務省「地方選挙結果調」、内閣官房内閣人事局「女性国家公務員の登用状況のフォローアップ」、内閣府「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況」、厚生労働省「賃金構造基本統計調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」他 |
|---------------------------|---|

|             |                    |          |        |
|-------------|--------------------|----------|--------|
| 担当部局・作成責任者名 | 男女共同参画局 推進課長 花咲 恵乃 | 事後評価実施時期 | 令和4年8月 |
|-------------|--------------------|----------|--------|



令和3年度実施施策に係る政策評価書

|                                   |  |           |        |        |        |        |
|-----------------------------------|--|-----------|--------|--------|--------|--------|
| 政策名                               | 科学技術・イノベーション政策   |           |        |        |        |        |
| 施策名                               | 科学技術・イノベーション基本計画の策定・推進   |           |        |        |        |        |
| 達成すべき目標                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の社会課題の解決に向けた研究開発の推進、課題解決先進国として世界へ貢献し、一人ひとりの多様な幸せ(wellbeing)の向上</li> <li>社会が持続可能性と強靱性を備え、国民の安全・安心を確保</li> <li>我が国の原子力利用に関する行政の民主的な運営が確保される</li> </ul>   |           |        |        |        |        |
| 施策の概要                             | 【施策の概要】<br>経済社会の発展及び福祉の向上に向けて、科学技術・イノベーション政策及び原子力政策を推進する。  |           |        |        |        |        |
|                                   | 【令和3年度に実施した具体的取組】<br>本政策に基づく内閣府の取り組みとして<br>・SIP・PRISMについて、追跡調査WGを設置し、令和4年度に実施する追跡評価WGIに向けて、追跡評価の試行と実施方針の検討を行った。<br>SIPでは、平成30年度に開始した第Ⅱ期の4年目として、我が国が抱える社会的課題の解決や産業競争力の強化のための12課題に取り組んだ。<br>PRISMでは、総合科学技術・イノベーション会議が策定した各種戦略等を踏まえ、AI技術、革新的建設・インフラ維持管理技術/革新的防災・減災技術領域、バイオ技術、量子技術の4領域に対し重点的に配分を行ってきており、令和3年度は、これら4領域の22施策に追加配分を実施した。<br>・原子力分野では、国内外の原子力動向を把握するための調査や原子力分野における情報体系の構築に向けた調査等を行った。 |           |        |        |        |        |
| 施策の予算額・執行額<br>(単位:百万円)            | 区分   | 令和元年度     | 令和2年度  | 令和3年度  | 令和4年度  |        |
|                                   | 予算の状況  | 当初予算(a)   | 38,129 | 38,127 | 38,128 | 38,137 |
|                                   |  | 補正予算(b)   | 2,905  | 2,670  | 9,805  |        |
|                                   |  | 繰越し等(c)   |        |        |        |        |
|                                   |  | 合計(a+b+c) | 41,034 | 40,797 | 47,933 |        |
| 執行額                               |  |           |        |        |        |        |
| 施策に関する内閣の重要政策<br>(施政方針演説等のうち主なもの) | 科学技術・イノベーション基本計画(第6期)(令和3年3月26日閣議決定)   |           |        |        |        |        |

|                                 |  |                        |                 |                              |                    |                    |                    |                    |      |   |
|---------------------------------|--|------------------------|-----------------|------------------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|------|---|
| 施策目標<br>(最終アウトカム)               | <ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の社会課題の解決に向けた研究開発の推進、課題解決先進国として世界へ貢献し、一人ひとりの多様な幸せ(wellbeing)の向上</li> <li>社会が持続可能性と強靱性を備え、国民の安全・安心を確保</li> <li>我が国の原子力利用に関する行政の民主的な運営が確保される</li> </ul> |                        |                 |                              |                    |                    |                    |                    |      |   |
| 中目標1                            | イノベーション力の強化<br>・戦略的・国際的な知財・標準の活用が推進される<br>・先進的な技術が社会に実装される   |                        |                 |                              |                    |                    |                    |                    |      |   |
| 測定指標1                           | 追跡評価WGでの評価結果   |                        |                 |                              |                    |                    |                    |                    |      |   |
|                                 | 目標<br>(目標年度)   | 成果の実用化・事業化<br>(R7年度)   | 施策の進捗状況<br>(目標) | R3年度<br>成果の実用化・事業化           | R4年度<br>成果の実用化・事業化 | R5年度<br>成果の実用化・事業化 | R6年度<br>成果の実用化・事業化 | R7年度<br>成果の実用化・事業化 | 達成状況 | ○ |
|                                 | 基準<br>(基準年度)   | 成果の実用化・事業化<br>(R2年度)   | 施策の進捗状況<br>(実績) | SIP・PRISMの各課題・施策の評価結果がおおむね良好 |                    |                    |                    |                    |      |   |
| 参考指標1                           | 課題評価WGでの社会実装に向けた評価の結果  |                        |                 |                              |                    |                    |                    |                    |      |   |
| 参考指標1                           | 参考<br>(参考年度)   | 社会実装に向けた進捗<br>(R2年度)   | 施策の進捗状況<br>(実績) | R3年度                         | R4年度               | R5年度               | R6年度               | R7年度               | ○    |   |
|                                 | 課題評価WGにおける12課題の評価結果がおおむね良好   |                        |                 |                              |                    |                    |                    |                    |      |   |
| 参考指標2                           | PRISM審査会での評価の結果  |                        |                 |                              |                    |                    |                    |                    |      |   |
|                                 | 参考<br>(参考年度)   | 官民投資拡大に向けた進捗<br>(R2年度) | 施策の進捗状況<br>(実績) | R3年度                         | R4年度               | R5年度               | R6年度               | R7年度               | ○    |   |
| PRISM審査会における22施策に対する評価結果がおおむね良好 |  |                        |                 |                              |                    |                    |                    |                    |      |   |
| 中目標2                            | 我が国の原子力利用に関する取組について、国内及び国際社会における理解が進む  |                        |                 |                              |                    |                    |                    |                    |      |   |
| 測定指標2                           | 原子力委員会Webサイトのアクセス件数<br>(同一日における、同一端末からの複数アクセスは重複しない。)  |                        |                 |                              |                    |                    |                    |                    |      |   |
|                                 | 目標値<br>(目標年度)  | 前年度以上<br>(R7年度)        | 年度ごとの目標値        | R3年度<br>728,261以上            | R4年度<br>前年度以上      | R5年度<br>前年度以上      | R6年度<br>前年度以上      | R7年度<br>前年度以上      | 達成状況 | ○ |
|                                 | 基準値<br>(基準年度)  | 728,261<br>(R2年度)      | 年度ごとの実績値        | 738,447                      |                    |                    |                    |                    |      |   |
| 参考指標3                           | 原子力委員会の議事録または音声データの公表件数  |                        |                 |                              |                    |                    |                    |                    |      |   |
| 参考指標3                           | 参考値<br>(参考年度)  | 43件<br>(R2年度)          | 年度ごとの実績値        | R3年度<br>47                   | R4年度               | R5年度               | R6年度               | R7年度               | ○    |   |
|                                 |  |                        |                 |                              |                    |                    |                    |                    |      |   |



|                           |                                   |          |   |
|---------------------------|-----------------------------------|----------|---|
|                           | (各行政機関共通区分) ② 目標達成                |          |   |
|                           | 目標達成度合いの測定結果                      | (判断根拠)   | <p>・測定指標1については、令和4年度に追跡評価WGを行う予定となっており、令和3年度は同WGに向けた試行と実施方針の検討を行った。そのため、達成状況については、以下のとおり参考指標1及び2の評価結果を踏まえて、目標達成と判断した。</p> <p>指標ごとの判断根拠として、SIPでは、令和3年度の課題評価WGにおいて、令和3年度に実施した課題の実用化や事業化に向けた研究開発の進捗状況が、想定以上の成果が得られているとして1課題(A+評価)、当初予定どおりの成果が得られているとして、10課題(A評価)が評価されている。(S、AA、A+、A、A-、B+、Bの7段階での総合評価)</p> <p>PRISMでも、PRISM審査会において、全ての施策が当初の予定通りの成果が得られている(B+以上)として評価されている。(A+、A、A-、B+、B、Cの6段階での総合評価)</p> <p>・加えて、測定指標2について数値目標を達成していることから、「②目標達成」としている。</p>   |
| 評価結果                      | 施策の分析<br>(目標達成・未達成に関する<br>要因分析等)  |          | <p><b>【測定指標1】</b><br/>「令和3年度 SIP 追跡調査の進め方について(令和3年2月25日ガバニングボード決定)」に基づき、追跡調査の前段階として、試行対象となる3課題を選定するとともに、評価の試行に向けた評価項目案を作成。3課題(エネルギーキャリア、次世代農林水産業、革新的構造材料)に対し、追跡評価の試行を実施。その結果を踏まえて改善すべき点を抽出し、次年度実施方針を策定した。SIP第1期終了後からこれまでの社会実装の成果、研究開発の学術的成果についてどのように、把握し、それらの情報を基に、評価するためにどのような方法をとるべきか検討を行っており、評価に向けた準備が進展している。</p> <p>PRISMIについては、毎年度PRISM審査会において事業評価を行うとともに、ガバニングボードとPRISM領域統括との意見交換会(令和4年2月開催)において、制度や評価のあり方について検討している。</p> <p><b>【測定指標1参考指標①】</b><br/>「令和3年度におけるSIP第2期課題評価の進め方について(令和3年6月24日ガバニングボード決定)」に基づき、設定した目標の達成度やSIPの目的とする社会実装の実現可能性に焦点を当てた評価を行った結果、各課題で研究内容に成果が見られるとともに、社会実装に向けた体制整備の進捗が見られた。今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響が継続し、例えば、欧州からの調達品の輸入が遅れるなどの事態も発生したが、機動的な研究開発の運営などにより、概ね、多くの研究テーマが当初の目標通り、あるいは、一部では社会実装が前倒しでなされるなど、それ以上の優れた成果が生み出された。</p> <p><b>【測定指標1参考指標②】</b><br/>民間企業の幅広い利用に向けて、産業利用のための汎用技術の開発やオープン化を着実に進展させる成果や、データプラットフォームの実装、建設現場の生産性を向上させる革新的技術の導入・活用に向けて幅広くかつ有効な成果が得られる等、多くの施策において、当初の想定以上の成果が得られた。</p> <p><b>【測定指標2】</b><br/>令和3年度は、「原子力利用に関する基本的考え方」(平成29年7月20日原子力委員会決定、翌21日閣議にて尊重する旨決定)のフォローアップとして毎年発行している「令和2年度版原子力白書」を発刊、「東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故から10年を迎えて」を特集としてまとめた。</p> <p>また、国際会議については、国際原子力機関(IAEA)総会における政府代表演説、アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の運営、国際原子力エネルギー協力フレームワーク(IFNEC)における原子力の平和利用を進めるための方策の検討を実施し、原子力委員会定例会議にてこれらを報告した。</p> <p>以上のような取組等を実施することにより、国内外で我が国の原子力利用についての関心が高まり、原子力委員会webサイトへのアクセスも前年度より増加したものと考えられる。</p> |
|                           | 次期目標等への反映の方向性                     |          | <p><b>【次期の施策の方向性について】</b><br/>引き続き推進</p> <p><b>【目標・測定指標の見直し等について】</b><br/>令和3年度は同年4月に策定された「第6期科学技術・イノベーション基本計画」等に基づく取組の初年度であったところ、内閣府予算における取組については測定指標の各項目について目標を達成しているなど、順調な進捗を示している。引き続き、総合科学技術・イノベーション会議における、第6期科学技術・イノベーション基本計画の進捗に関する議論などを踏まえながら、内閣府予算に関する取り組みの進捗については、現行の測定指標を用いて行う考え。</p>  |
| 学識経験を有する者の知見の活用           |                                   |          | <p>・総合科学技術・イノベーション会議の定例会合の場等で有識者議員の知見を得て、政策の企画立案に活用している。</p> <p>・SIPの課題評価WG、PRISM審査会においては、学識経験を有する者が評価を実施しており、その知見を活用しているものである。</p>   |
| 政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報 |                                   |          | <p>・令和3年度SIP第I期追跡調査WG報告資料、令和3年度SIP第II期課題評価WG評価結果資料、令和3年度PRISM審査会評価結果資料</p> <p>・「原子力利用に関する基本的考え方」(平成29年7月20日原子力委員会決定、翌21日閣議にて尊重する旨決定)</p> <p><a href="http://www.aec.go.jp/jicst/NC/about/kettei/kettei170720.pdf">http://www.aec.go.jp/jicst/NC/about/kettei/kettei170720.pdf</a></p>   |
| 担当部局・作成責任者名               | 科学技術・イノベーション推進事務局<br>参事官(総括) 橋爪 淳 | 事後評価実施時期 | 令和4年8月  |